

## II 電子マネーの保有・利用状況

### 1 概要

#### (1) 電子マネーの保有割合が最も高いのは関東地方

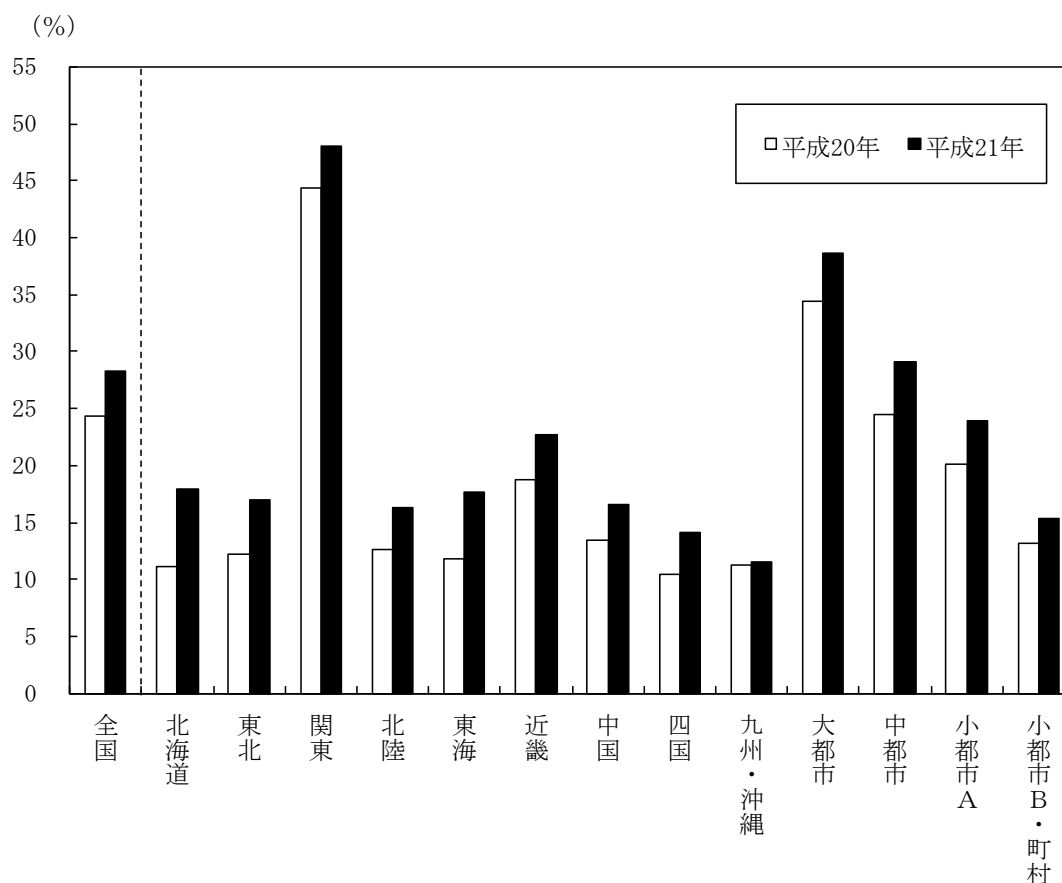
世帯全体において、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合は28.3%となっており、前年に比べ3.9ポイントの上昇となっている。これを地方別にみると、関東が48.0%と最も高く、次いで近畿が22.7%、北海道が17.9%などとなっている。これを前年と比べると、北海道では6.8ポイントの上昇、東海で5.9ポイントの上昇などとなっており、九州・沖縄では0.3ポイントの上昇となっている。都市階級別にみると、大都市が38.6%と最も高くなっている。これを前年と比べると、いずれの都市階級でも上昇となっている。(表10、図10)

表10 電子マネーの保有状況

	全国	地方									都市階級			
		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	大都市	中都市	小都市A	小都市B・町村
【電子マネーを持っている世帯員がいる】														
平成20年(a)	24.4	11.1	12.2	44.3	12.7	11.8	18.8	13.4	10.5	11.3	34.4	24.5	20.1	13.2
21(b)	28.3	17.9	17.0	48.0	16.3	17.7	22.7	16.6	14.1	11.6	38.6	29.1	24.0	15.4
ポイント差(b-a)	3.9	6.8	4.8	3.7	3.6	5.9	3.9	3.2	3.6	0.3	4.2	4.6	3.9	2.2

(注) 地方・都市階級ごとの世帯総数に対する割合。図10も同じ。

図10 電子マネーの保有状況



(2) 電子マネーの利用回数が最も多いのは交通機関

世帯全体において、電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合は 21.0%となっており、前年に比べ3.0ポイントの上昇となっている。

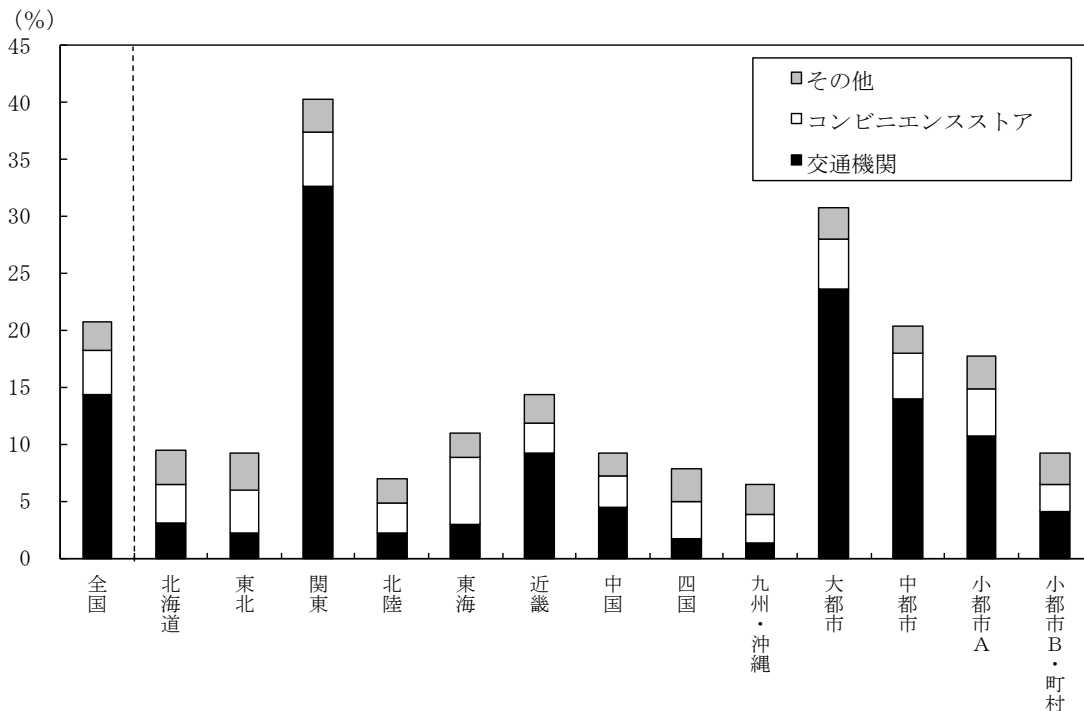
また、世帯全体において、電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合をみると、交通機関が 14.3%と最も高く、次いでコンビニエンスストアが 3.9%などとなっている。これを地方別にみると、関東では交通機関が 32.7%と最も高い割合となっている。(表 11、図 11)

表 11 電子マネーの利用回数が最も多かった場所

	全国	地方									都市階級			
		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	大都市	中都市	小都市A	小都市B・町村
平成20年(a)														
電子マネーを利用した世帯員がいる	18.0	5.4	7.1	36.9	6.7	6.5	11.4	7.6	6.3	6.4	28.5	17.3	13.7	8.0
【利用回数が最も多かった場所】														
交通機関	12.5	0.8	2.5	30.5	1.7	1.4	6.5	2.6	2.1	1.0	22.6	11.7	8.9	2.6
コンビニエンスストア	3.2	3.0	2.8	3.7	3.8	3.2	2.5	2.5	2.3	3.5	3.2	3.5	2.7	3.2
その他	2.0	1.7	1.8	2.3	1.2	1.9	2.2	2.4	1.5	1.8	2.2	1.8	1.9	2.1
平成21年(b)														
電子マネーを利用した世帯員がいる	21.0	9.5	9.3	40.6	6.9	10.9	14.5	9.5	7.9	6.5	31.0	20.6	17.8	9.3
【利用回数が最も多かった場所】														
交通機関	14.3	3.1	2.2	32.7	2.2	3.0	9.2	4.4	1.7	1.3	23.6	14.0	10.7	4.1
コンビニエンスストア	3.9	3.4	3.8	4.7	2.6	5.8	2.6	2.8	3.2	2.5	4.4	4.0	4.2	2.3
その他	2.6	3.0	3.2	2.9	2.1	2.2	2.5	2.0	3.0	2.6	2.8	2.4	2.8	2.8
ポイント差(b-a)														
電子マネーを利用した世帯員がいる	3.0	4.1	2.2	3.7	0.2	4.4	3.1	1.9	1.6	0.1	2.5	3.3	4.1	1.3
【利用回数が最も多かった場所】														
交通機関	1.8	2.3	-0.3	2.2	0.5	1.6	2.7	1.8	-0.4	0.3	1.0	2.3	1.8	1.5
コンビニエンスストア	0.7	0.4	1.0	1.0	-1.2	2.6	0.1	0.3	0.9	-1.0	1.2	0.5	1.5	-0.9
その他	0.6	1.3	1.4	0.6	0.9	0.3	0.3	-0.4	1.5	0.8	0.6	0.6	0.9	0.7

(注) 地方・都市階級ごとの世帯総数に対する割合。図11も同じ。

図 11 電子マネーの利用回数が最も多かった場所 - 平成 21 年



## 2 世帯主の年齢階級別

### (1) 電子マネーの保有割合が最も高いのは40～49歳の世帯

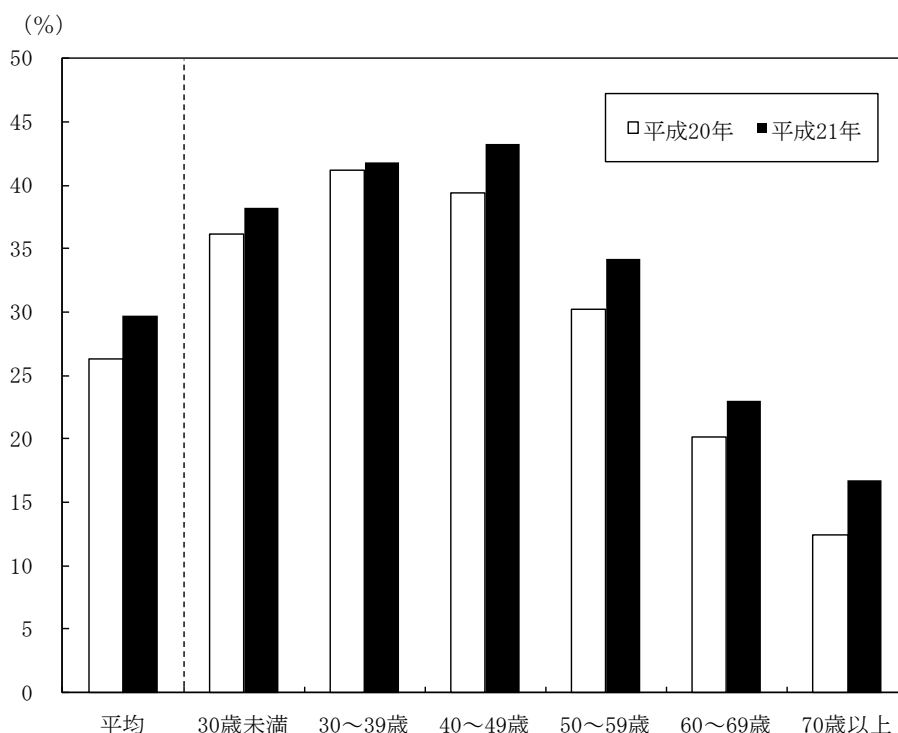
二人以上の世帯について、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合を世帯主の年齢階級別にみると、40～49歳が43.2%と最も高く、次いで30～39歳が41.8%、30歳未満が38.2%などとなっており、70歳以上が16.7%と最も低くなっている。これを前年と比べると、50～59歳が4.0ポイントの上昇、40～49歳が3.8ポイントの上昇などとなっている。(表12、図12)

表12 世帯主の年齢階級別電子マネーの保有状況（二人以上の世帯）

	平均	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
(%)							
【電子マネーを持っている世帯員がいる】							
平成20年(a)	26.3	36.2	41.2	39.4	30.2	20.2	12.4
21年(b)	29.7	38.2	41.8	43.2	34.2	23.0	16.7
ポイント差(b-a)	3.4	2.0	0.6	3.8	4.0	2.8	4.3

(注) 年齢階級ごとの世帯総数に対する割合。図12も同じ。

図12 世帯主の年齢階級別電子マネーの保有状況（二人以上の世帯）



## (2) 電子マネーの利用割合が最も高いのは40～49歳の世帯

二人以上の世帯について、電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合を年齢階級別にみると、40～49歳が31.1%と最も高く、70歳以上が13.7%と最も低くなっている。

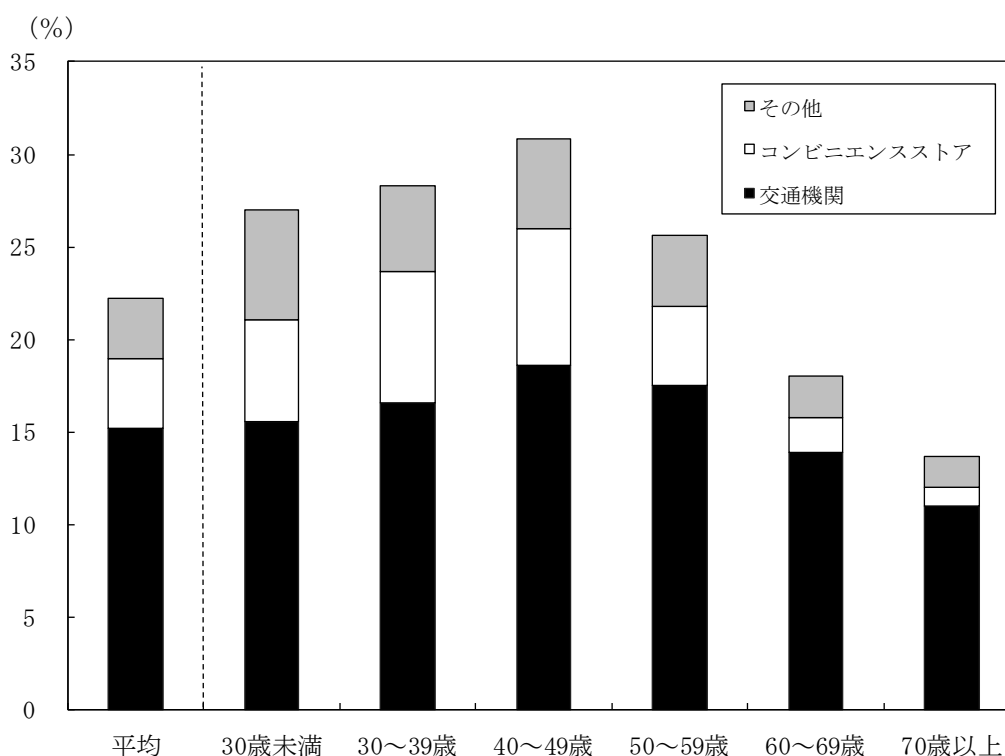
また、二人以上の世帯について、電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合を世帯主の年齢階級別にみると、いずれの年齢階級でも交通機関が最も高い割合を占めている。(表13、図13)

表13 世帯主の年齢階級別電子マネーの利用回数が最も多かった場所（二人以上の世帯）

	平均	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
(%)							
平成20年(a)							
電子マネーを利用した世帯員がいる	19.3	23.6	27.5	27.4	22.3	16.0	10.1
【利用回数が最も多かった場所】							
交通機関	13.4	13.7	16.7	18.1	15.4	12.3	7.9
コンビニエンスストア	3.4	4.2	7.4	6.0	3.8	1.7	1.0
その他	2.1	4.5	3.0	2.6	2.7	1.8	1.1
平成21年(b)							
電子マネーを利用した世帯員がいる	22.3	27.2	28.5	31.1	25.8	18.1	13.7
【利用回数が最も多かった場所】							
交通機関	15.2	15.6	16.6	18.6	17.5	13.9	11.0
コンビニエンスストア	3.8	5.5	7.1	7.4	4.3	1.9	1.0
その他	3.2	5.9	4.6	4.8	3.8	2.2	1.7
ポイント差(b-a)							
電子マネーを利用した世帯員がいる	3.0	3.6	1.0	3.7	3.5	2.1	3.6
【利用回数が最も多かった場所】							
交通機関	1.8	1.9	-0.1	0.5	2.1	1.6	3.1
コンビニエンスストア	0.4	1.3	-0.3	1.4	0.5	0.2	0.0
その他	1.1	1.4	1.6	2.2	1.1	0.4	0.6

(注) 年齢階級ごとの世帯総数に対する割合。図13も同じ。

図13 世帯主の年齢階級別電子マネーの利用回数が最も多かった場所（二人以上の世帯）－平成21年



### 3 世帯主の職業別

#### (1) 電子マネーの保有割合が最も高いのは会社などの役員の世界帯

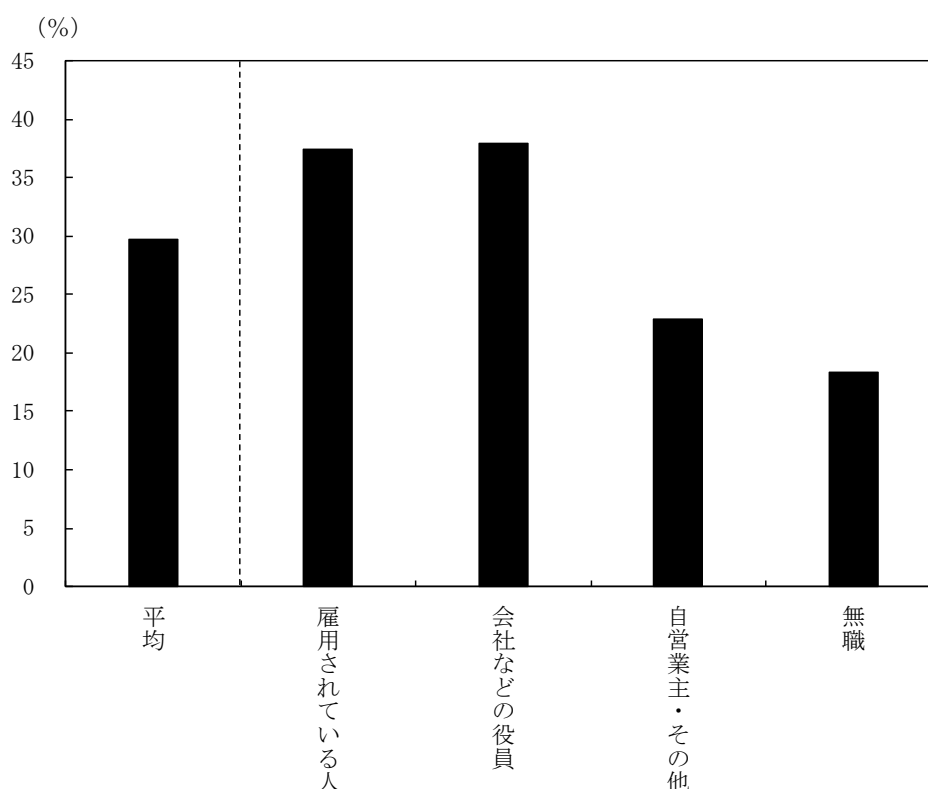
二人以上の世帯について、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合を世帯主の職業別にみると、会社などの役員が 37.9%と最も高く、次いで雇用されている人が 37.4%などとなっている。(表 14、図 14)

表 14 世帯主の職業別電子マネーの保有状況（二人以上の世帯）

	平均	雇用されている人	会社などの役員	自営業主・その他	無職
(%)					
【電子マネーを持っている世帯員がいる】					
平成20年(a)	26.3	34.5	33.4	20.3	14.4
21 (b)	29.7	37.4	37.9	22.9	18.3
ポイント差(b-a)	3.4	2.9	4.5	2.6	3.9

(注) 職業ごとの世帯総数に対する割合。図14も同じ。

図 14 世帯主の職業別電子マネーの保有状況（二人以上の世帯）－ 平成 21 年



(2) 電子マネーの利用金額が最も多いのは自営業主・その他の世帯

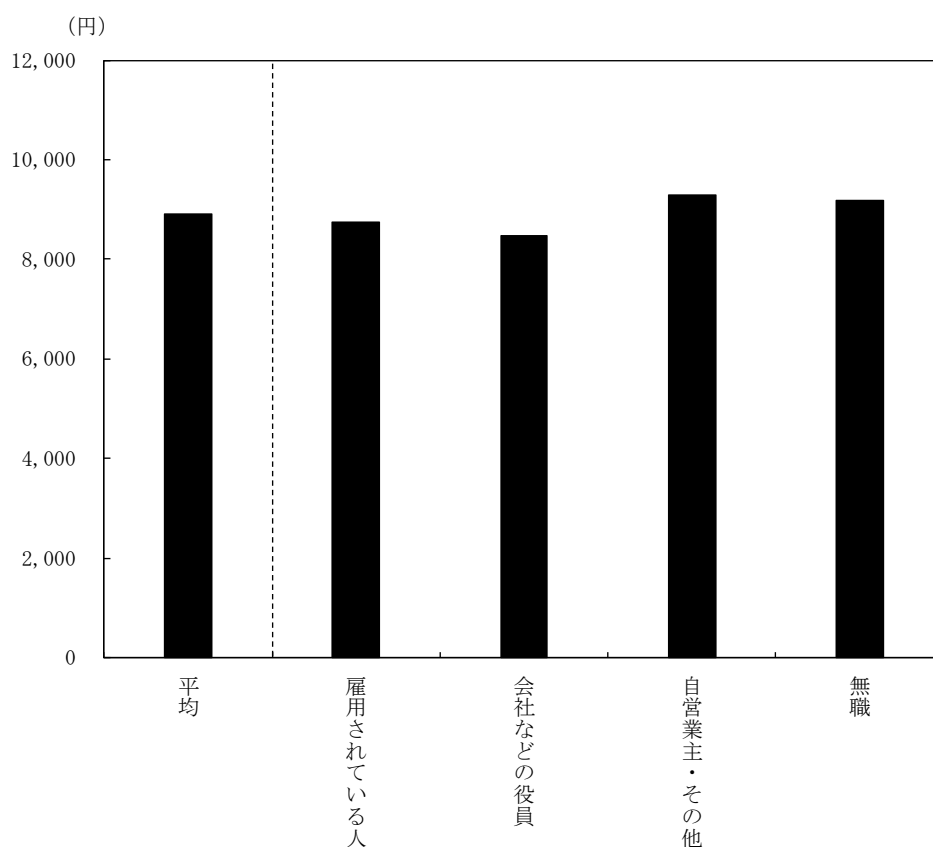
二人以上の世帯について、電子マネーを利用した1世帯当たり1か月間の平均利用金額を世帯主の職業別にみると、自営業主・その他が9,298円と最も多くなっている。

(表15、図15)

表15 世帯主の職業別電子マネーを利用した1世帯当たり1か月間の平均利用金額(二人以上の世帯)

	平均	雇用されている人	会社などの役員	自営業主・その他	無職
平成20年	8,727	8,476	11,139	9,260	8,186
21	8,897	8,755	8,471	9,298	9,171
増減率(%)	1.9	3.3	-24.0	0.4	12.0

図15 世帯主の職業別電子マネーを利用した1世帯当たり1か月間の平均利用金額(二人以上の世帯)－平成21年



#### 4 年間収入階級別

##### (1) 年間収入階級 1000 万円以上の世帯では電子マネーの保有割合は 50%を超える

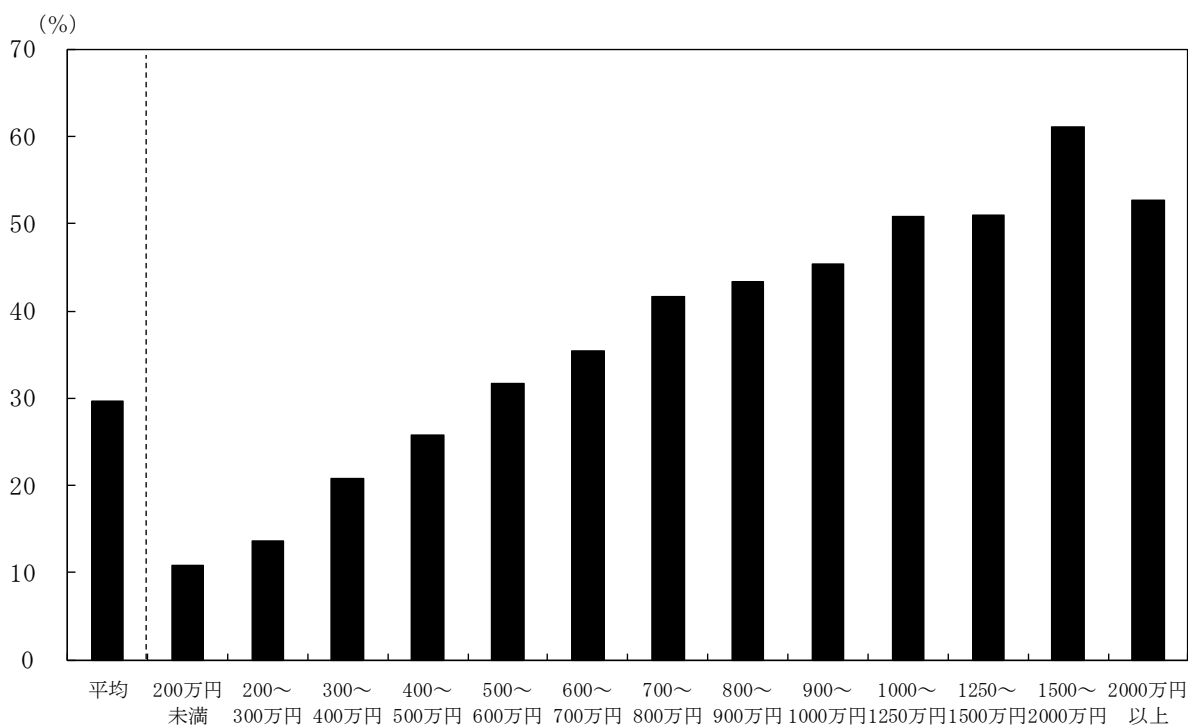
二人以上の世帯について、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合を年間収入階級別にみると、年間収入階級が高いほど割合が高くなる傾向があり、年間収入階級 1500～2000 万円未満の世帯では 61.1%となっている。(表 16、図 16)

表 16 年間収入階級別電子マネーの保有状況（二人以上の世帯）

	平均	200万円未満	200～300万円	300～400万円	400～500万円	500～600万円	600～700万円	700～800万円	800～900万円	900～1000万円	1000～1250万円	1250～1500万円	1500～2000万円	2000万円以上
(%)														
【電子マネーを持っている世帯員がいる】														
平成20年	26.3	7.5	11.8	17.3	22.6	28.6	31.6	36.7	40.2		46.5	46.2	51.4	
21	29.7	10.8	13.7	20.8	25.7	31.7	35.4	41.6	43.3	45.4	50.8	50.9	61.1	52.7

(注) 年間収入階級ごとの世帯総数に対する割合。図16も同じ。  
平成21年から年間収入階級の区分を変更した。

図 16 年間収入階級別電子マネーの保有状況（二人以上の世帯）－ 平成 21 年



(2) すべての年間収入階級で電子マネーの利用割合が最も高いのは交通機関

二人以上の世帯について、電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合を年間収入階級別にみると、年間収入階級が高いほど割合が高くなる傾向がある。

また、二人以上の世帯について、電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合を年間収入階級別にみると、いずれの年間収入階級でも交通機関が最も高い割合を占めている。(表 17、図 17)

表 17 年間収入階級別電子マネーの利用回数が最も多かった場所（二人以上の世帯）

	平均	200万円未満	200～300万円	300～400万円	400～500万円	500～600万円	600～700万円	700～800万円	800～900万円	900～1000万円	1000～1250万円	1250～1500万円	1500～2000万円	2000万円以上
平成20年														
電子マネーを利用した世帯員がいる	19.3	5.4	8.3	12.4	15.4	19.4	21.6	27.7	29.5		36.5	36.4	45.7	
【利用回数が最も多かった場所】														
交通機関	13.4	2.9	5.4	8.3	10.6	13.2	14.5	19.9	20.6	27.2	25.6	34.4		
コンビニエンスストア	3.4	1.3	1.3	2.0	2.6	3.9	5.0	5.0	5.4	5.1	5.6	6.2		
その他	2.1	1.1	1.3	1.9	1.9	1.9	2.1	2.6	2.9	3.5	4.3	4.3		
平成21年														
電子マネーを利用した世帯員がいる	22.3	7.4	9.5	15.4	18.1	22.8	25.4	31.6	33.8	35.6	40.8	41.7	50.2	42.2
【利用回数が最も多かった場所】														
交通機関	15.2	4.4	6.5	10.7	11.8	14.9	17.1	21.0	23.7	25.5	29.3	28.8	37.3	31.4
コンビニエンスストア	3.8	1.4	1.3	2.1	3.2	4.0	4.1	6.0	6.2	5.6	6.9	8.0	8.7	6.6
その他	3.2	1.5	1.7	2.5	2.8	3.7	3.9	4.4	3.4	4.4	4.5	4.6	3.5	4.2

(注) 年間収入階級ごとの世帯総数に対する割合。図17も同じ。  
平成21年から年間収入階級の区分を変更した。

図 17 年間収入階級別電子マネーの利用回数が最も多かった場所（二人以上の世帯）－平成 21 年

